

資料 9.6 地下水

9.6-1 対象事業実施区域及びその周辺の地質等について

資料 9.6 地下水

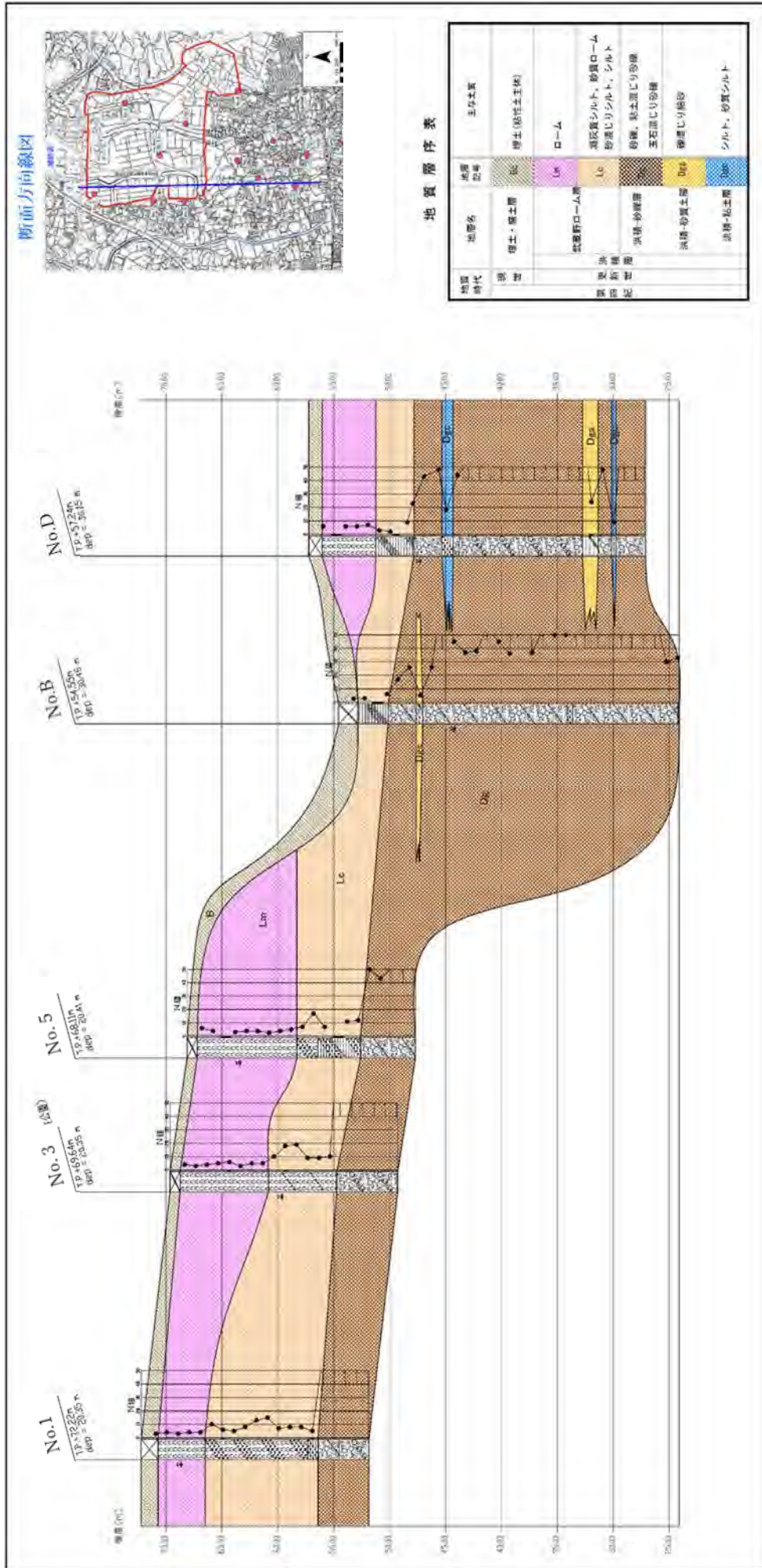
9.6-1 対象事業実施区域及びその周辺の地質等について

現地調査（ボーリング調査）により得られた土質、色調、N値等を基に分布する地層を区分し作成した地質断面図を図9.6-1(1)～(5)に示します。なお、作図にあたっては、別途環境影響評価の手続きが行われている、(仮称)都市高速鉄道上瀬谷ライン整備事業のために実施された調査地点の結果も含めて検討しました。また、現地調査で確認された土層一覧を表9.6-1に示します。

対象事業実施区域付近の地層は、上位より埋土・盛土総（Bc）、武蔵野ローム層のローム（Lm）、凝灰質シルト、砂質ローム、砂混じりシルト、シルト（Lc）、洪積層の砂礫、粘土混じり砂礫、玉石混じり砂礫（Dg）が分布しています。

表 9.6-1 現地調査で確認された土質一覧表

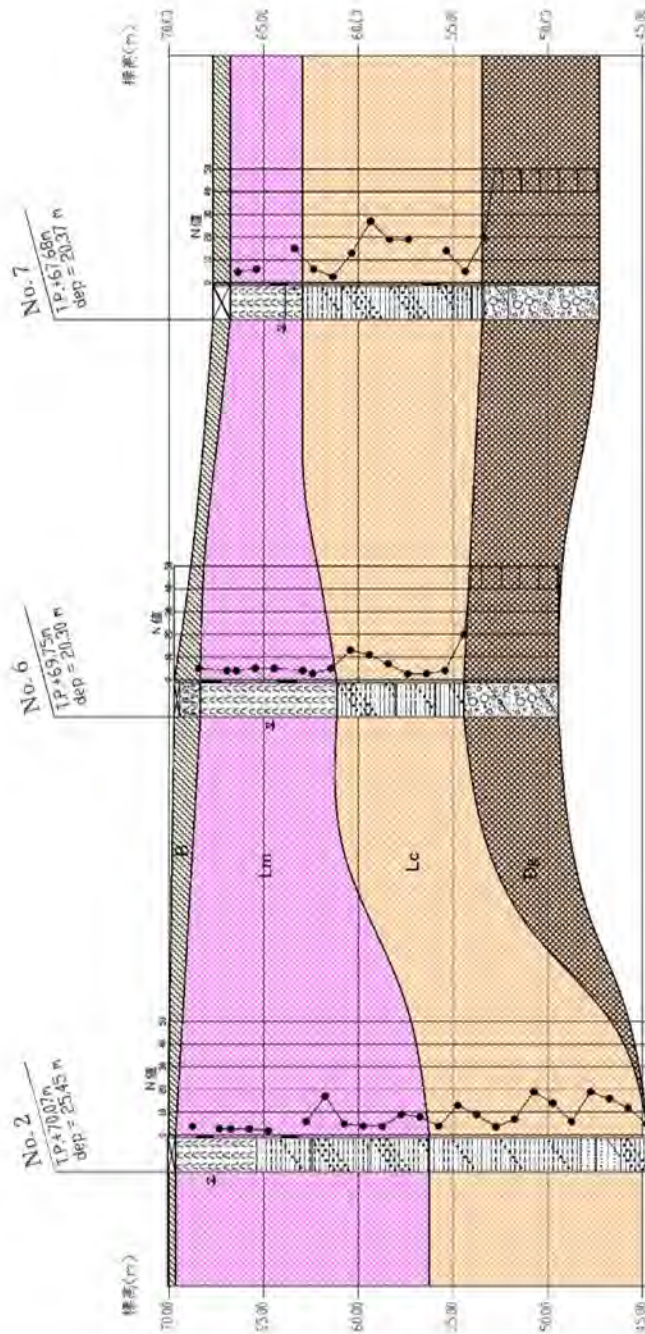
地層名	地層記号	主な土質	層厚 (m)	N値(回)			相対密度 相対稠度	主な色調	層相
				最小値	最大値	平均値			
埋土・盛土層	B	埋土(粘性土主体)	0.30～ 1.70	3	8	5.1	-	暗褐灰～ ～黒茶灰 ～黒灰	・ 礫を少量混入 ・ 粘性は全体に弱く不均質 ・ コンクリートガラ・礫・レンガ等を混入 ・ 層下部砂を含みコンクリート基礎のガラ混入
ローム層 武蔵野	ローム層	ローム	4.20～ 9.10	0	7	4.6	非常に軟 らかい～ 中位	黄褐～ 暗褐～暗 灰	・ 全体に軟質となり粘性中位 ・ 均質である ・ 含水少量、礫点在する箇所あり
	凝灰質粘土層	凝灰質シルト、砂質ローム、砂混じりシルト、シルト	2.70～ 11.65	2	19	10.0	非常に軟 らかい～ 中位非常に 硬い	黄褐～緑 褐～暗褐 色～暗灰	・ 粘性中位 ・ 所々酸化褐色を呈す ・ 層下部につれて砂質粘土となる ・ 所々砂を混入する地点あり
洪積層	洪積-砂礫層	Dg 砂礫	3.55～ 13.00 以上	30	50以上 (300)	50以上 (83.4)	中位～非 常に密な	黄灰～暗 青灰～暗 灰	・ 含水多量、φ最大150mm程度の玉石混入 ・ マトリックスは細砂 ・ φ3～50mmの礫を多量混入
	洪積-砂質土層	Dgs 礫混じり細砂	0.60～ 1.40	24	24	24.0	中位	暗灰	・ 不均一な砂 ・ 含水少量 ・ 部分的に礫を混入する
	洪積-粘性土層	Dgc シルト、砂質シルト	0.40～ 2.15	7	24	14.5	中位～非 常に硬い	黄褐～黄 灰～暗青 灰～暗灰	・ 全体に砂混入 ・ 粘土固結済み ・ スコリア混入する



注：No. B、D は(仮称)都市高速鉄道上瀬谷ライン整備事業の環境影響評価の調査のために行われた調査地点です。

図9.6-1(1) 地質断面図 (No. 1-No. 3-No. 5-No. B-No. D方向)

断面方向線図



地質層序表

地質時代	地層名	記号	主な土質
第四紀	埋土・埋土層	0a	埋土(埋土主体)
	北畠野ローム層	Lm	ローム
更新世	沖積砂礫層	Lc	粗粒質シルト、砂質ローム 粘質シルト、シルト
	洪積砂礫層	Dy	砂礫、粘土質粘性砂礫 互層状粘性砂礫
	洪積砂質土層	0b	粘質粘性砂礫
第三紀	洪積粘土層	0c	シルト、砂質シルト
	洪積粘土層	0d	

図 9.6-1 (2) 地質断面図 (No. 2-No. 6-No. 7 方向)

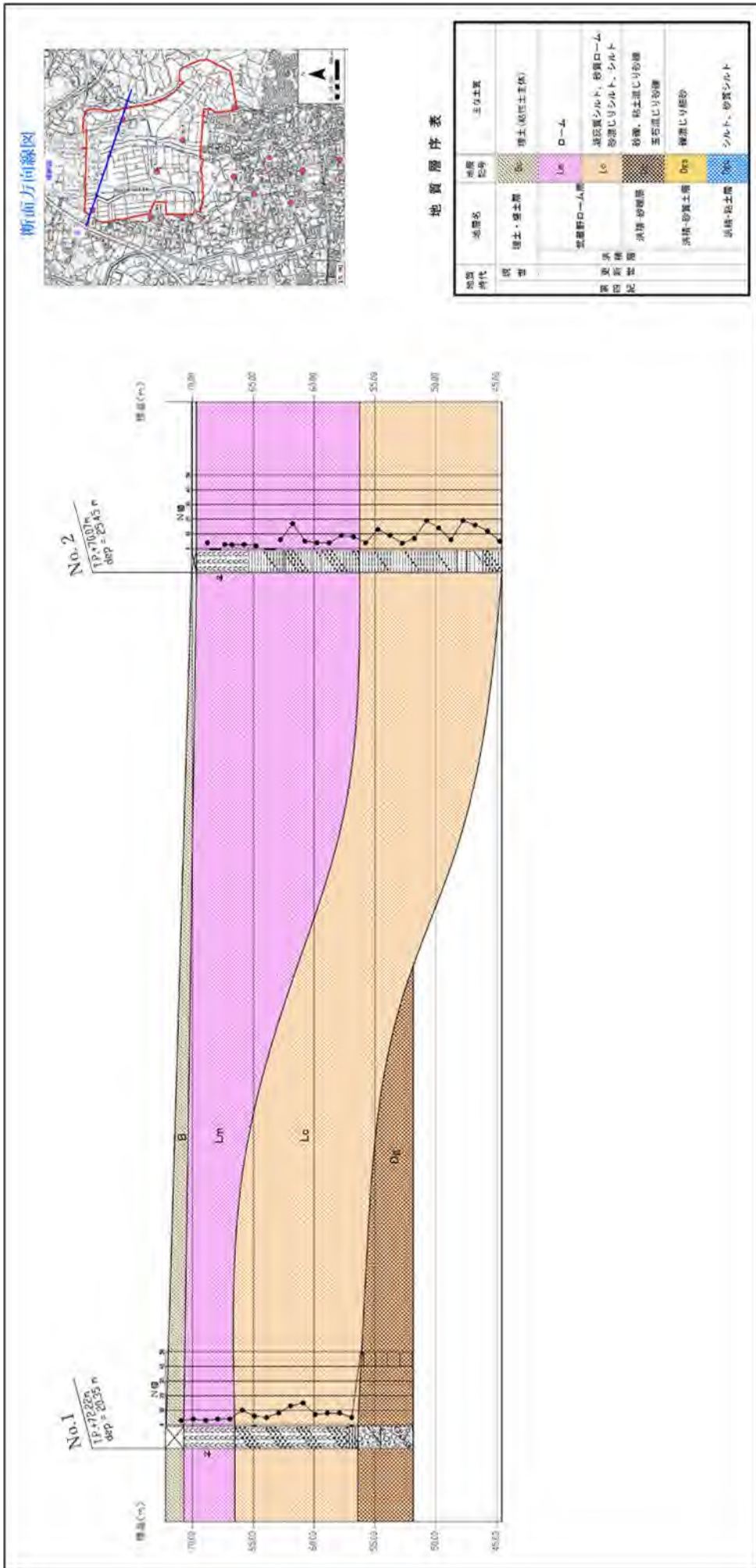
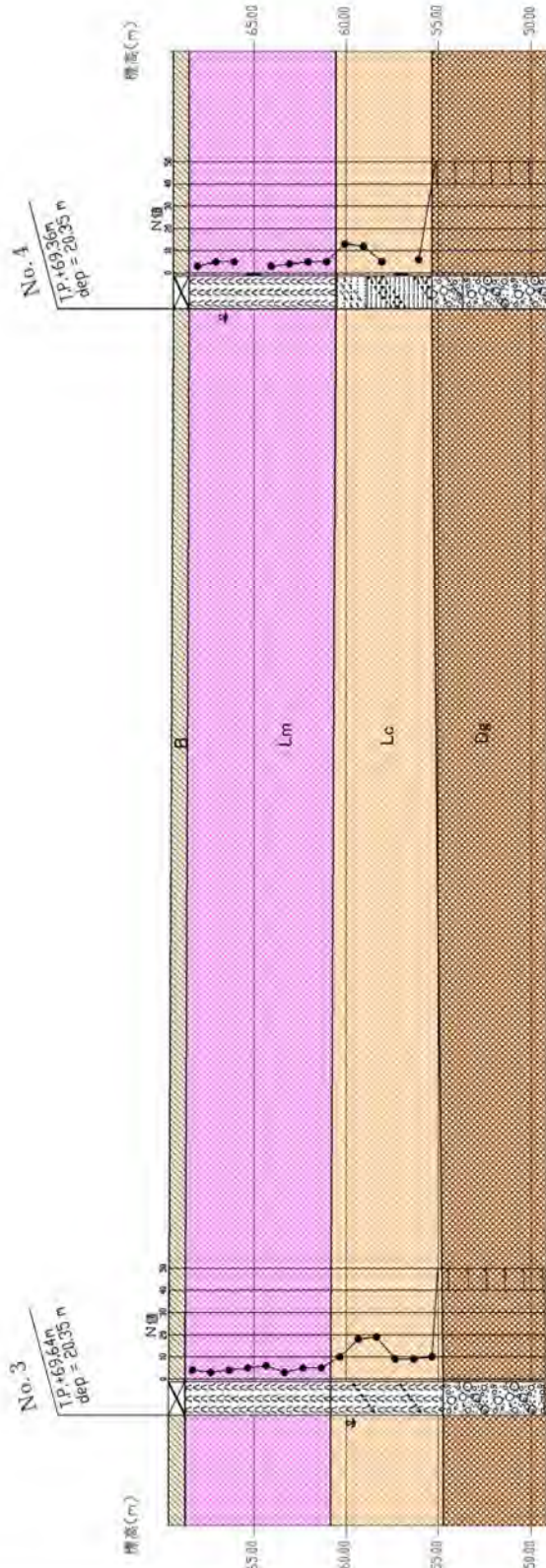
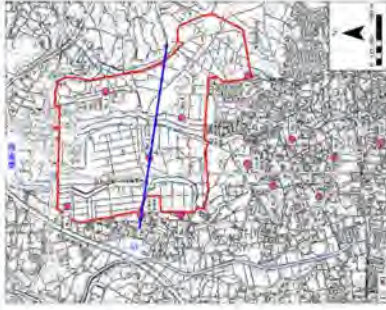


図 9. 6-1 (3) 地質断面図 (No. 1-No. 2 方向)

断面方向線図

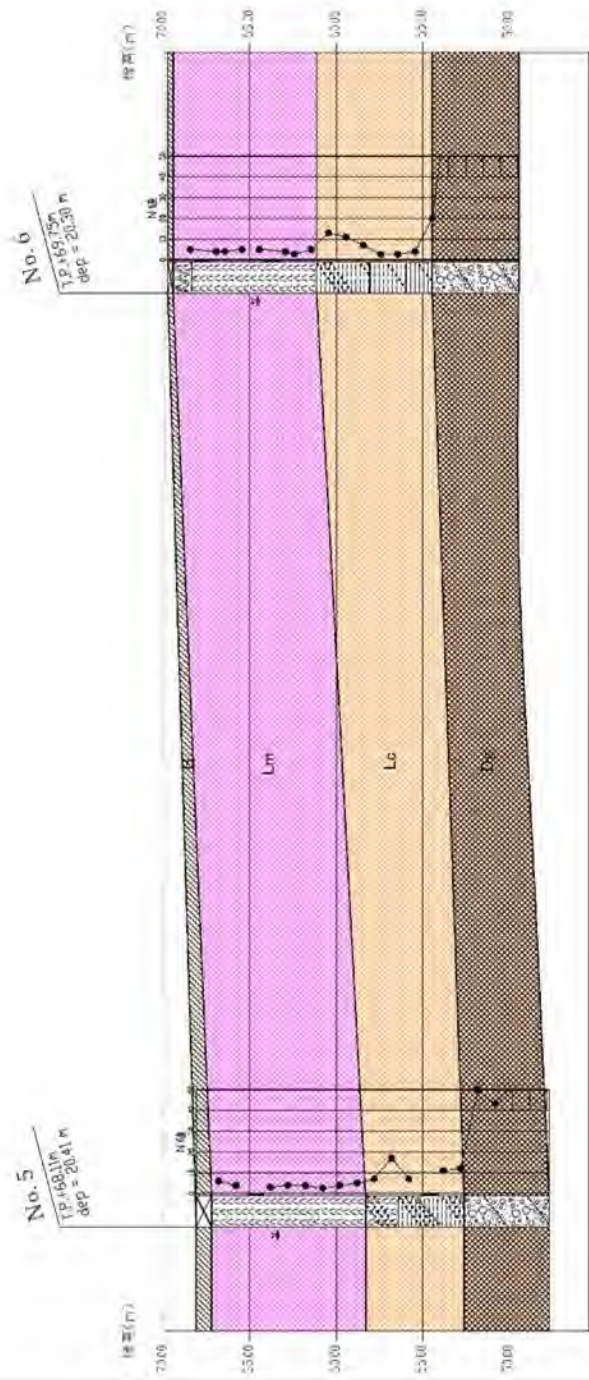


地質層序表

所属時代	地層名	記号	主要土層
現世	埋土・埋土層	埋	埋土(粘性土等)
更新世	筑前野ローム層	Lm	ローム
	栗原	Lc	高気質シルト、砂質ローム、砂質じりシルト、シルト
	栗原	Dg	砂質、粘土質じり砂層、玉石質じり砂層
	栗原	Dg	粘土質じり砂層、砂質じり砂層
第四紀	次層・粘土層	次	シルト、砂質シルト

図 9.6-1(4) 地質断面図 (No.3-No.4 方向)

断面方向線図



地質層序表

時代	地層名	地層記号	主な地層
新第三紀	埋土層	Lc	埋土(埋没土塊)
			ローム
第四紀	埋土層	Lc	砂質シルト、砂質ローム 砂質シルト、シルト
			砂質、粘土質シルト
第四紀	埋土層	Dy	粘土質シルト、シルト
			粘土質シルト

図 9. 6-1 (5) 地質断面図 (No. 5-No. 6 方向)